

2017年度 自己点検・評価【商学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

| | | | |
|-----|------|------|-----|
| 責任者 | 商学部長 | 作成部局 | 商学部 |
|-----|------|------|-----|

【A票：教育研究目標1】

(タイトル)

高度な能力を有するビジネスパーソンの養成

(狙い内容)

高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

より一層専門的な知識と総合的教養を身につけた学生を輩出するため、入学時における学力を担保し、併せてカリキュラムの整備を進める。

2. 達成度評価

| | | | |
|------|---|------|--|
| 評価指標 | 一般入試以外の入試を見直すとともに、ハンズオン科目に関するカリキュラムを改編する。 | 評価尺度 | A：見直し・改編が完了している。 B：見直し・改編の作業が行われている。 C：見直し・改編について議論がなされている。 D：見直し・改編に着手していない。 |
|------|---|------|--|

3. 年度毎の目標値

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------------------------|---------------------------------|-----------------|--|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2016年度 自己点検・評価時 点 | | C 執行部会にて検討のみ | C 学部執行部において、「推薦依頼校の見直し基準」の見直しおよびハンズオン科目のカリキュラムの整備について議論を開始した。 | C | C | B | B | A |
| 2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値 | 評価 尺度： A～D | C | C | 実績 | B | | | |
| | 見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況) | 執行部会にて検討のみ | 学部執行部において、「推薦依頼校の見直し基準」の見直しおよびハンズオン科目のカリキュラムの整備について議論を開始した。 | | | | | |

【2017年度の進捗状況について】

- ・「推薦指定校の見直し基準」において、これまでの基準の見直しをおこなった(2018年度入試の推薦指定校見直しより運用)。
- ・外国人留学生入試の実施について、試験実施内容や出願条件の変更について検討。その後、本入試における全学的な見直しが検討されることになったため、全学での動きをみて対応することとなった。
- ・ハンズオン科目については、2017年度全学のハンズオン科目の履修者数は51(実数44)名となっており、昨年の42(実数37)名から増加している。更なる増加をはかるために商学部のハンズオン科目の設定を早い段階でおこなう必要がある。

2017年度の実績状況の確認

2017年度の実績は、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

＜評価専門委員・第三者評価結果＞ 2017年12月22日公示

- ・ 行動計画①の評価尺度は、達成度を測るのに適切とは言えません。どうなれば「A:目標をほぼ達成している」と言えるのかについて、定めておくことが望まれます。見直しが完了したらA、見直しの案が出来たらB、見直しについて検討を始めたらCといったように、見直しまでのプロセスを評価尺度に設定することも考えられます。
- ・ 行動計画②の評価指標と評価尺度は適切とは言えません。「参加学生を増加させる」という結果からすれば、指標は「参加学生数」など、尺度には増やそうとする人数を設定することが望まれます。(A)
- ・ 学部独自のハンズオン科目の設定が期待されます。(B)
- ・ ハンズオン科目のカリキュラム改編と、参加学生の増加を目指した取り組みは徐々に効果をあげているようで、評価できます。指定校推薦入試の見直しと、外国人留学生の受け入れについての議論がさらに進み、実効あるものになることが期待されます。(C)
- ・ ハンズオン科目については改編が進んだようですので、今後については進捗状況の説明欄に記入頂いているように、「ハンズオン科目の履修者数」といった具体的な数値目標の設定が望まれます。(D)
- ・ 当初設定した目標どおりに進展しています。学部のハンズオンラーニング科目の設定が期待されます。(E)
- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(F)
- ・ 順調に見直しと改善が進んでおり、評価できる。(G)
- ・ 順調に推移しており、評価できます。(I)
- ・ 入試制度の見直しの取組みが進められていますが、今後、制度の見直しによって学生の多様性や意欲がどのように変化しているか、という点の検証も進めていただくことを期待しています。(J)

2021年度に向けた教育研究目標

【A票：教育研究目標2】

(タイトル)
国際化時代・情報化時代におけるグローバル人材の育成

(狙い内容)
言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学部における語学教育・専門教育を踏まえ、海外の高等教育機関(主に本学協定校)において、語学能力を生かしたビジネスコミュニケーションや専門能力を活用したローカルビジネス研究など、ビジネス教育プログラムを一層充実・発展させ、グローバルマインドを向上させる。
また、国際化時代に対応できる適切な英語コミュニケーションスキルを備えた人材を育成するため、学生個々の学力水準に応じたきめ細かな英語教育システムを整備する。

2. 達成度評価

| 評価指標 | 習熟度別クラス編成が進み、その効果を受けて、海外の高等教育機関での単位取得数が増える。 | 評価尺度 | A：下記Aの尺度を共に満たしている。 B：下記Bの尺度を共に満たしている。 C：2015年度に比べて変化がみられる。 D：2015年度のクラス数・単位数から変化がない。 |
|------|---|------|---|
|------|---|------|---|

3. 年度毎の目標値

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|--|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2016年度 自己点検・評価時点 | | C ・海外短期研修実施 ・英語習熟度別編成(1年生のみ)実施 | C 英語習熟度別編成については、1年生科目(英語ⅠⅡリーディング)および2年生科目(英語ⅢⅣリーディング)において、上中下の3レベルでの編成を実施。海外研修プログラムについては、2015年度に引き続き2016年度も夏と春(予定)に実施。また2017年度から新たな研修プログラムを実施するよう、執行部会にて検討を進めている。 | C | C | B | B | A |
| | 評価尺度: A~D | C | C | 実績 | B | | | |
| 2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値 | 見込・実績・目標 (値又は 状況) | ・海外短期研修実施 ・英語習熟度別編成(1年生のみ)実施 | 英語習熟度別編成については、1年生科目(英語ⅠⅡリーディング)および2年生科目(英語ⅢⅣリーディング)において、上中下の3レベルでの編成を実施。海外研修プログラムについては、2015年度に引き続き2016年度も夏と春(予定)に実施。また2017年度から新たな研修プログラムを実施するよう、執行部会にて検討を進めている。 | | | | | |

【2017年度の進捗状況について】

英語習熟度別編成については、昨年度同様に1年生科目(英語ⅠⅡリーディング)および2年生科目(英語ⅢⅣリーディング)において、上中下の3レベルでの編成を実施。海外研修プログラムについては、昨年度執行部会にて検討を進めていた新たな商学部の研修プログラムを2017年度より開始。また、既に実施の研修プログラムについても、これまでの実施状況や学生のニーズを踏まえて、派遣先やプログラムの改修をおこなった。2017年度の商学部プログラムへの参加者は41名(他学部7名含)、商学部以外のプログラムへの参加者は119名で合計153名の学部生が昨年度の120名から33名増加した。
さらに、行動計画②に関連した取り組みとして、授業外での英語力アップを目的とした英語e-learningプログラムを希望者に対して実施した。

2017年度の実績状況の確認

2017年度の実績は、当初の目標どおりに進んでいるか?

→ はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・グローバル人材の育成に向けた取り組みが評価できます。(A)
- ・学部独自の海外研修プログラムを開始されるなど取り組みは順調に進展しています。(B)
- ・英語の習熟度別編成について、大幅な進展があったことが評価できます。すでに目標は達成されているので、この習熟度別編成をどう海外研修や、上位のプログラムと接続させるかを目標にすることもできると思います。(C)
- ・行動計画2は既にA評価です。これからは行動計画1の派遣数のような具体的な数値目標の達成が望まれます。(D)
- ・計画の実施後に点検及び改善活動が実施されており、評価できます。(F)
- ・行動計画①に関して、進捗が少々遅れているようです。(G)
- ・目標に向けて今後の進捗が期待されます。(H)
- ・順調に進んでいます。(I)
- ・引き続き取り組みの推進が期待されます。(J)